

No.9 ほっこりできる環境づくり

平林美穂・岸田宏実・濱口沙夜香(あすかの保育園)

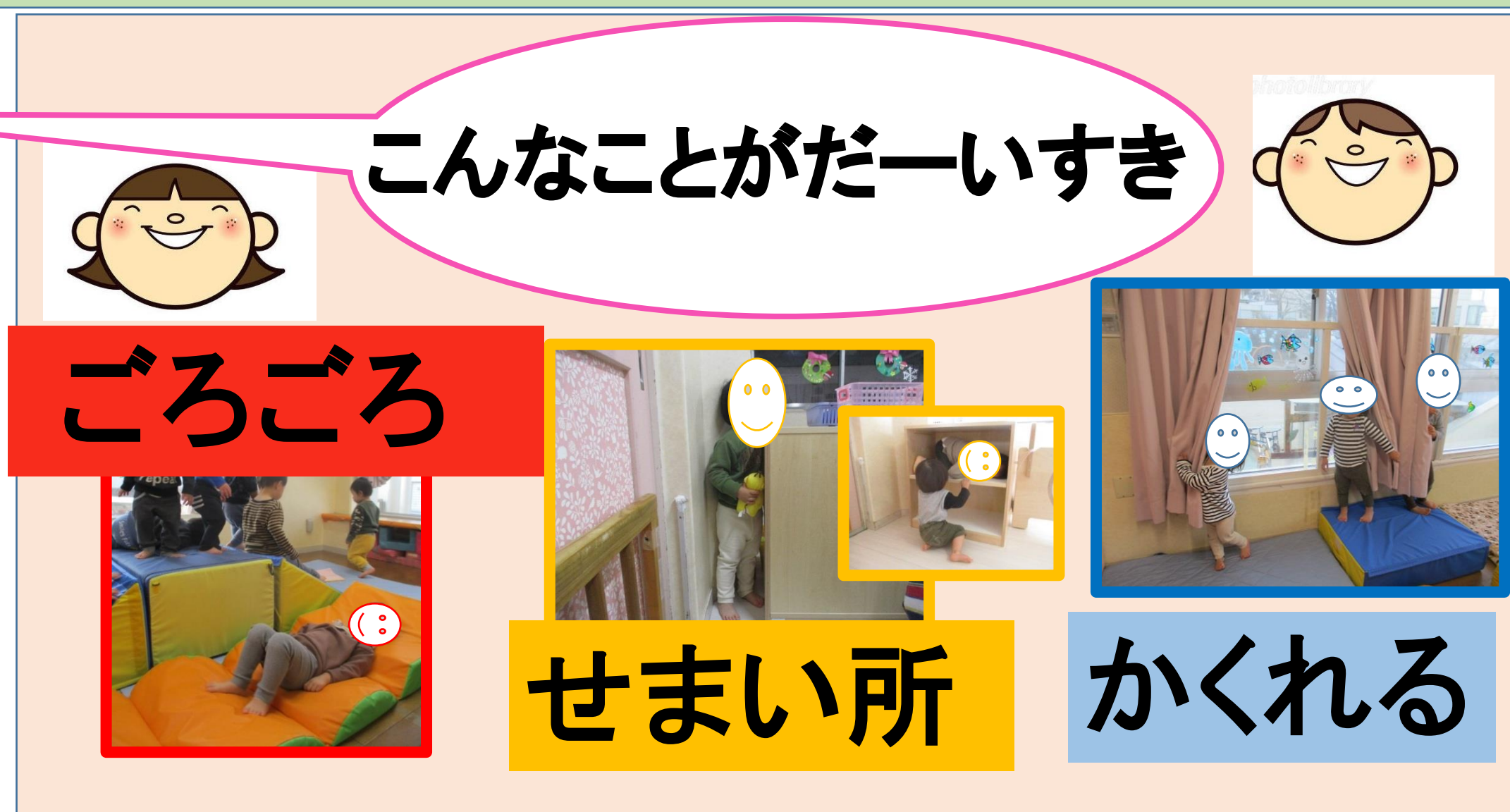
背景

好奇心旺盛で行動範囲も広がってくる1歳児にとっては生活環境すべてがあそび場。ごろごろしたり、あちこち探索してはせまい所に入ったり、隙間に隠れたりして目を輝かせている。子どもたちの見つけた楽しいあそびを思いきりさせてあげたいけれど、危険だったり、保育室のスペースの都合上それができない現状があった。

1歳の頃の姿

- 「じぶんで！」
自我が芽生え「自分でやりたい」意欲が出始める
- 「キョロキョロ」
友だち、自然、動物などまわりへの興味が高まる
- 「いやいや！」
「〇〇じゃなくて、▲▲がいい」と自分の意思をはっきり主張するようになる

こんなことがだーいすき



ごろごろ
せまい所
かくれる

こどもたちのしたいことを思いきりさせてあげたい

でも...

葛藤

他の子に踏まれる。危ない。

見えにくくて危険

他の子のあそびの妨げになってしまう

検証1 こどもたちがしたいと思うことをしたい時に存分に楽しめる環境をつくってみよう!

① マットを敷いていつでもごろごろできるスペースを作る



② 棚の下にいつでも入れる空間を作る



③ 透ける布で囲まれた空間を作る



すると...

他のあそびの妨げになることなく、好きな時にごろごろしたり、隠れたりしてほっこりしていた。

その場所を家に見立てたりしてイメージを膨らませ遊ぶ姿が見られた。

「危ないよ」と止めることが減り、目が行き届きやすくなった。

気づいたこと

場所が狭かったり、数が少ないとトラブルになる

いつも同じところに同じ子がいる

子どもによって好む感触や空間の形は違うのではないかな?

検証2 一人ひとりに合わせて、より満足できる環境を工夫してみよう!

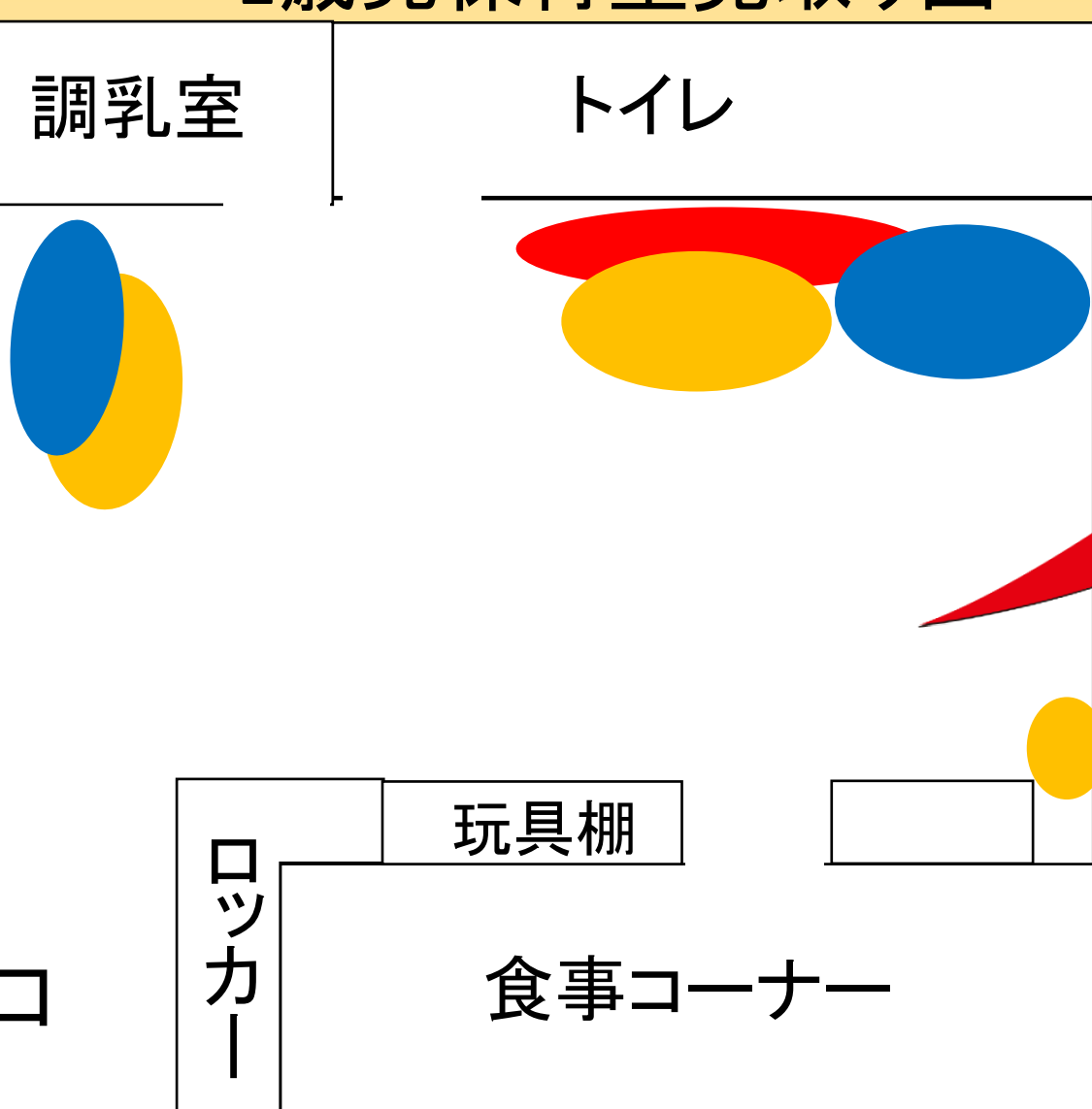
いろいろな場所にいろいろな形のほっこりスペースを設置する

いろいろな素材で作る

かくれるスペース



1歳児保育室見取り図



ごろごろスペース

さまざまな毛布やマット



ひとりでほっこり

でこぼこ



つつつひんやり



ふわふわ



☆ほっこりスペースのポイント☆

- 一人でゆっくりしたり、お友だちと一緒にゆったりしたり、その時の気持ちが満足できるように、好きな形に変えられるようにしておく。
- 季節や気温によって素材を変えたり、設置する場所を変えたりする。

トラブルが減り、それぞれがゆったりとくつろげるようになった

より自分が好きな感触の空間を選んでほっこりする姿が見られた

結果

保育室の中にいつでも寝転んだり、隠れたりできる安全な場所を設置すると、子どもたちは自分の好きな時に好きな場所に行き、思う存分気持ちよさそうに過ごしたり、あそびを膨らませて心行くまで遊びこむ姿があった。いろいろな場所に設置することでトラブルも減り、またいろいろな素材、大きさ、感触の空間を作ることで、より自分に合った心地よい空間を見つけてほっこりと過ごす姿が見られた。

考察・まとめ

「ごろごろしたい」「隠れたい」「包まれたい」「囲まれたい」など、子どもの求めている欲求をあそびに変えたり、環境を工夫して満たせるようにすることで、子どもたちは安心してほっこりとパワーを充電することができるのだと思う。そしていつでも好きな時に安心できる自分の居場所に行けることで、自分の好きなあそびを見つけて楽しんだり、スムーズに気持ちを切り替えたり、友だちと仲良く遊んだりすることができるようになり笑顔で生き生きと意欲的に過ごせるようになるのだと感じた。